

第36回

うつのみやこども賞だより

令和元年度 7回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『友だちをやめた二人』

今井福子／著 　いつか／絵（文研出版）

～読んだ本の感想より～

- 1回けんかをして仲直りできたということがすごかった。少し悲しい場面もあったけど、最後はハッピーエンドで終わり、よかったと思う。
- 題名が悲しいと思ったけど、読んでみておもしろかったし、仲直りできてよかったと思った。友だち関係だから、なじみやすい。
- よくある友達関係のなやみとかをテーマにしているよかった。友達だけど親友じゃない…という関係は誰でも有り得ることだったので、共感しやすいと思った。
- 思っていることは同じなのにすれちがってしまう2人が、最後は友達以上親友未満におさまって、スッキリしたおわり方がよかった。
- 二人の関係が良くなって、よかった。



令和元年12月1日

『よろしくパンダ広告社』 間部香代／著（学研プラス）

- ワタシンピックになって、とてもおもしろくて、いろんな広告を3人でつくっているのがすごいなと思った。
- 表紙のシンプルでかわいい絵が、とてもほのぼのとした本の世界観にあっていて、よかった。人間の仕事の内容をパンダで紹介していたので、ユーモアでおもしろいと思った。
- 最初は話に入りづらかったけれど、話が分かってきたら、とてもおもしろかった。表紙もかわいいし、この本でたくさんのことを学んだ気がする。
- 表紙の絵や題名がすごく印象に残ったし、広告社についても知ることができました。
- キャッチフレーズがなかなか良かった。

『手紙』 福田 隆浩／著（講談社）

- すごくおもしろかった。コウとホノ。ふつうにごくふつうの毎日を生きていたら、こうならない。運命的なものであ。お母さんの秘密、すごくいい話でよかった
- 最初は読んでいて、お母さんの秘密は難しくて分からなそうだなと思っていたけれど、秘密が分かって、ペンフレンドとして仲良くなったのがいいと思いました。
- 手紙式の文がいいと思った。急にホノが手紙を出して、びっくりした。
- 手紙だけで物語がつくられているという設定の本をよんだことがなかったから、あきずに楽しくよむことができた。
- おもしろくて、どんどんよめたし、最後が感動した。

『ぼくたちは卵のなかにいた』 石井睦美／著（小学館）

- 面白かった。最初からずっとワクワクしてた！にくしみの谷のところは、ドキドキだったけど、ナオトと兄がペリカンだったところは感動した。記おくを取りもどす所もよかった。
- 絵も上手だったし、最後の終わり方も良かったです。最初、題名を見たとき思った物語とぜんぜんちがったし、とても感動しました。
- 読者に対する質問が出てくるので、深く考えながら読みました。
- リョウが、卵の中にくしみのない世界で出てしまったのは序ばんでは思ったけど、にくしみの世界で命の水が違って、びっくりした。
- 主人公が聞いてくるところが面白くて新しいなと思った。